

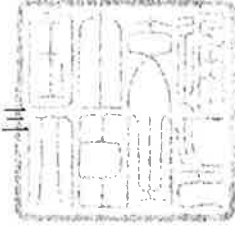


# 認定書

国住指第 3332 号  
平成 20 年 1 月 30 日

日鐵住金建材株式会社  
代表取締役社長 小山 巖 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
FP060FL-0073
2. 認定をした構造方法等の名称  
コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：  
コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 申請仕様の寸法：  
申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
床の積載荷重	建築基準法施行令第 85 条による劇場等の客席又は集会室（固定席でない場合）の荷重(3500N/m <sup>2</sup> )以下
支持方法	単純支持又は連続支持
支持部材間隔	3400mm 以下
床厚（d）	155～175mm

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
デッキプレート	材料：デッキプレート(JIS G 3352) 材質：①～⑤の一 ①SDP1TG (普通鋼、めっき有り) ②SDP1T (普通鋼、圧延のまま) ③SDP2G (普通鋼、めっき有り) ④SDP2 (普通鋼、圧延のまま) ⑤SDP3 (耐候性鋼) 厚さ：1.0～1.6mm 山高さ：75mm(±1.5mm) 働き幅：600mm(+8, -2mm)
コンクリート	材料：レディーミクストコンクリート(JIS A 5308) 種類：普通コンクリート 呼び強度：18～36N/mm <sup>2</sup> 厚さ：デッキプレート山上から 80～100mm
鉄筋 (上端筋)	材料：①又は② ①溶接金網(JIS G 3551) 鉄線の形状：丸鉄線又は異形鉄線 断面寸法：線径 φ6mm 以上 網目寸法：150×150mm 以下 ②異形鉄筋 (1)又は(2) (1)鉄筋コンクリート用棒鋼(JIS G 3112) 材質：(イ)～(ホ)の一 (イ)SD295A、(ロ)SD295B、(ハ)SD345、(ニ)SD390、(ホ)SD490 (2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼(JIS G 3117) 材質：SDR295 又は SDR345 断面寸法：呼び名 D10 以上 間隔：200×200mm 以下 かぶり厚さ：床上面から 30mm

4. 申請仕様の副構成材料：

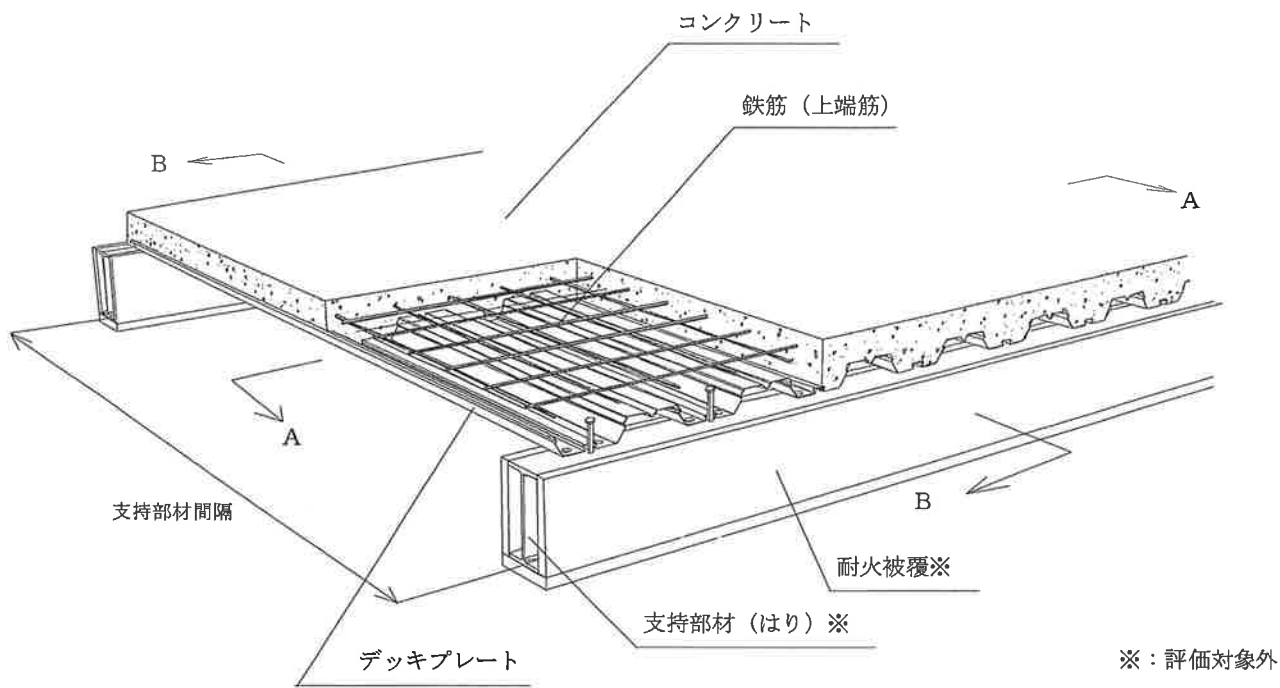
申請仕様の副構成材料を表 3 に示す。

表 3 申請仕様の副構成材料

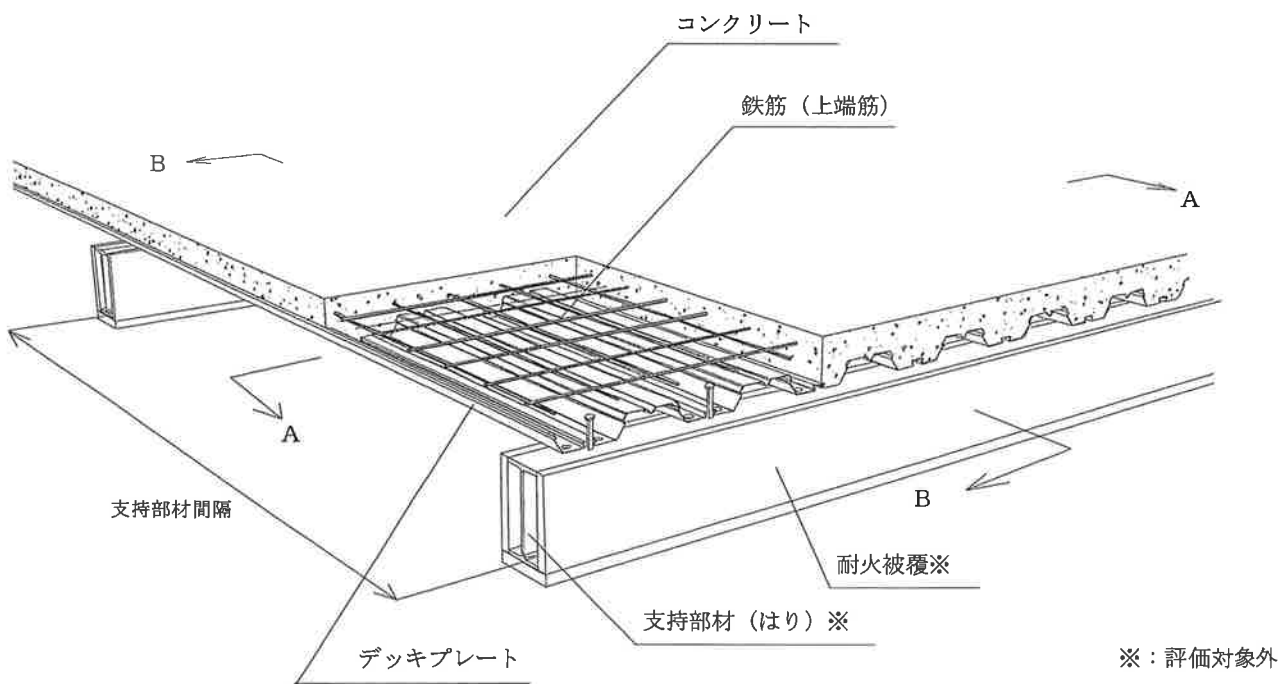
項 目	申請仕様
留付材	床と支持部材の接合：頭付きスタッド(JIS B 1198) 寸法：φ 16mm 以上 間隔：300mm 以下

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図 1～図 4 に示す。



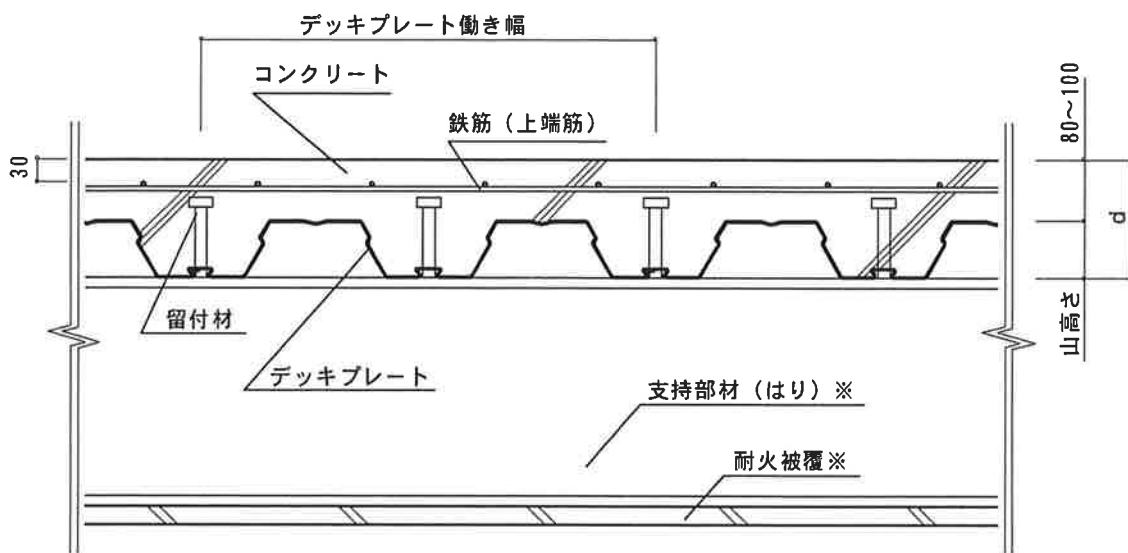
透視図 (単純支持)



透視図 (連続支持)

図1 構造説明図

単位mm

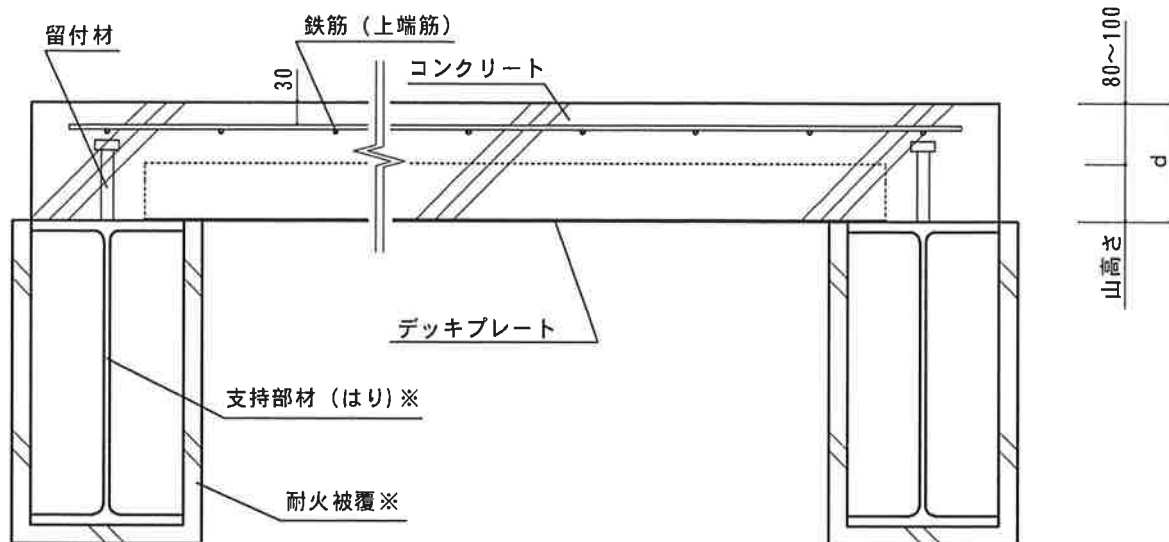


※：評価対象外

A-A断面図

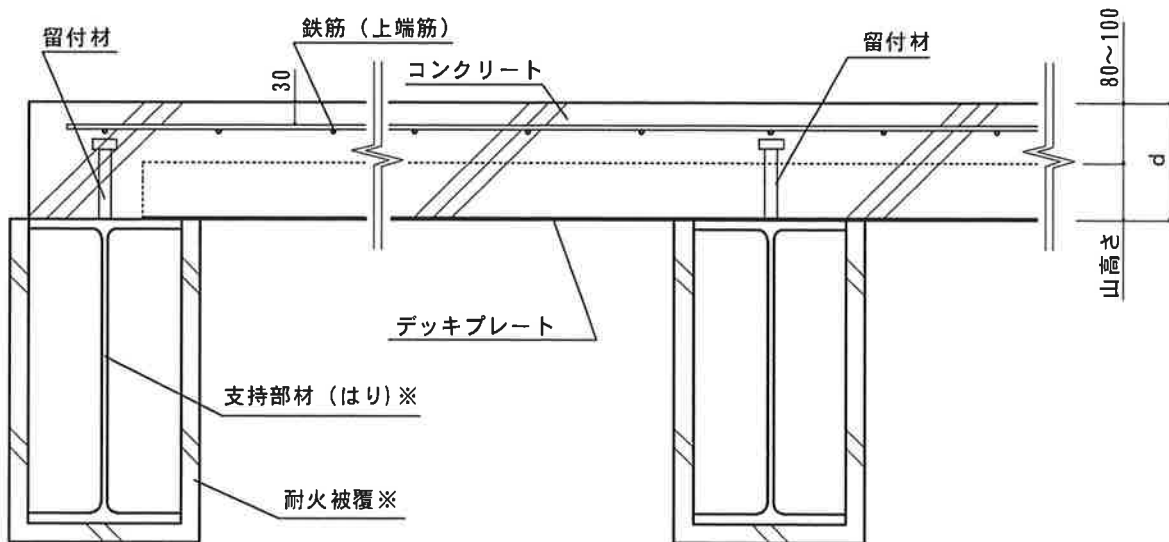
図2 構造説明図

単位mm



※：評価対象外

B - B 断面図 (単純支持)

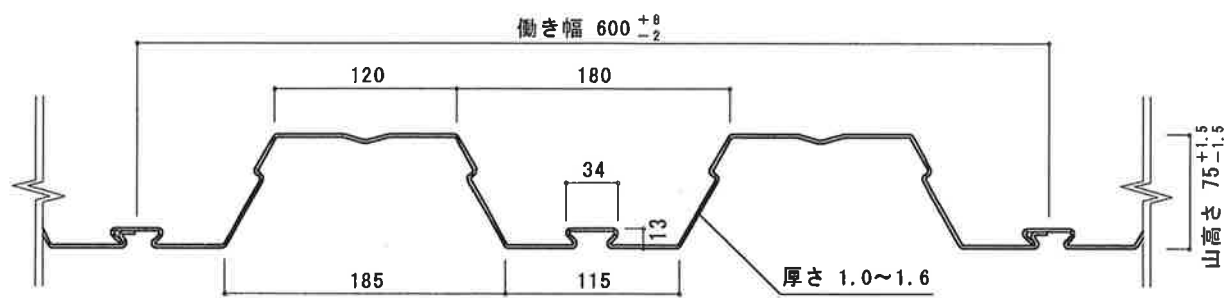


※：評価対象外

B - B 断面図 (連続支持)

図3 構造説明図

単位mm



デッキプレート断面詳細図

図4 構造説明図



## 6. 施工方法：

施工図を図 5 に示す。

施工は、以下の手順で行う。

### 1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせてはりに配置し、デッキプレートをはりに溶接等で仮止めする。

### 2) 頭付きスタッドの施工

先立ってデッキプレートと鉄骨はりをすみ肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合したのち、頭付きスタッドの施工を行う。施工方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定及び「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

### 3) 鉄筋（上端筋）の設置

コンクリートのひび割れ拡大防止のため、溶接金網または異形鉄筋を設置する。スラブ上面から 30mm のかぶり厚さを確保できるよう、スペーサーを介して設置する。スペーサーの材料は、鉄線φ4mm 以上又はセメントモルタルブロックを用い、間隔は 1.0m 以下とする。

### 4) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

### 5) 仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

### 6) 養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

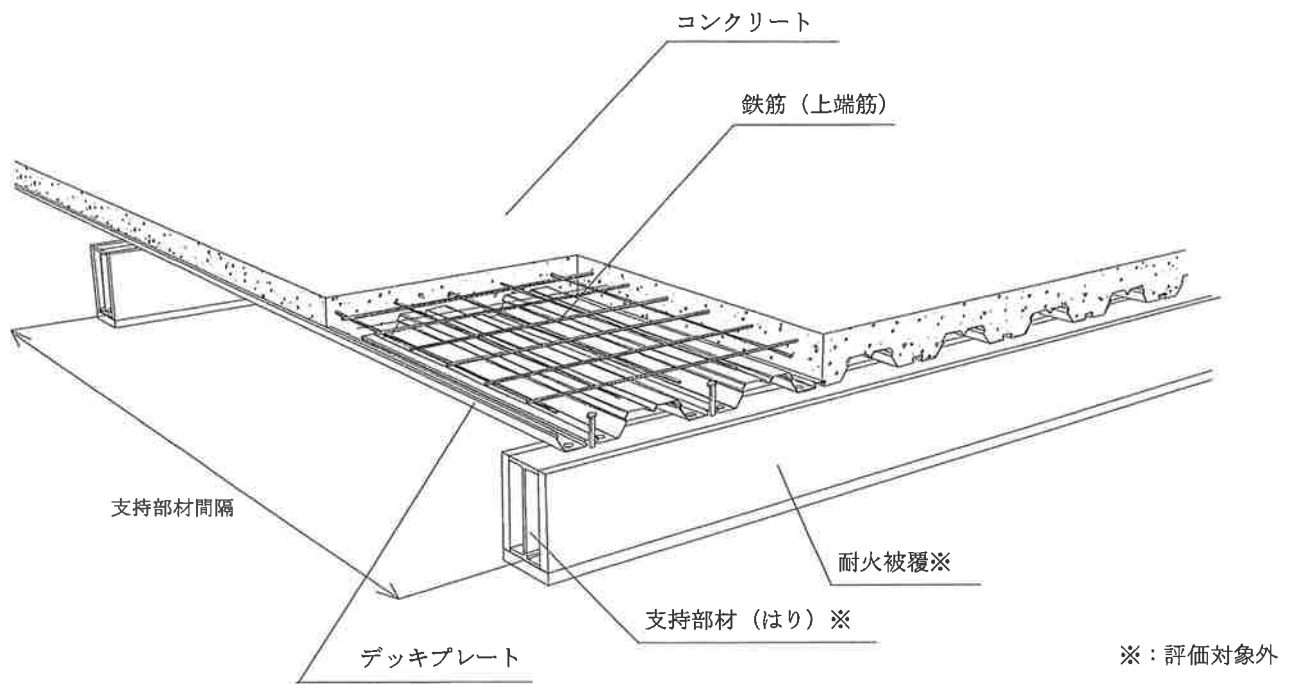
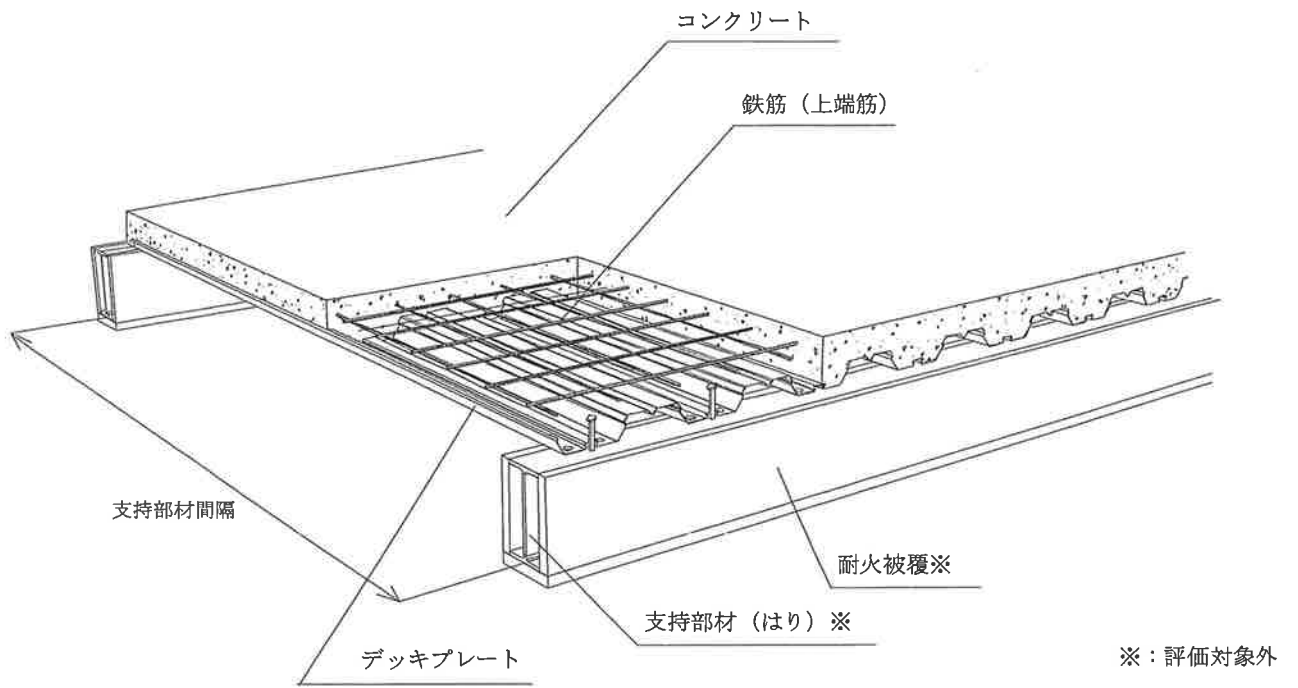


図5 施工図